

令和 8 年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

5 年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	○まとまりや順序に気を付け、分かりやすい文章を組み立てる力が十分ではない。 ○「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが明確になるように工夫して話す力が十分に身に付いていない。また、全体場で考えを伝えることが苦手な児童がいる。	○文章を書く前に、伝えたいことを付箋や構成メモに整理し、内容のまとまりや順序を考える時間を設定する。また、友達と文章を読み合い、段落のつながりや伝わりやすさについて意見を交流することで、自分の文章を見直し、改善する力を育てる。 ○自分の考えを形成する段階で、思考ツール等を用いて考えを明確にし、自信がもてるようにする。 ○ペアや 5 人前後のグループなど、多様な意見交換や交流の場を設け、自分の考えを伝えることへの抵抗感を減らしていく。	
社会	○社会的事象の意味を捉え、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく表現する力に課題が見られる。これらの点から、思考・判断・表現に関する力の習得度には個人差が見られる。	○複数の資料を比較・関連付けて読み取り、資料から分かることと自分の考えを区別して整理する活動を取り入れる。また、考えの根拠となる資料やその内容を明示して表現する場を設定し、資料を根拠として自分の考えを伝える力を育てる。 ○統計資料の読み取りを丁寧に行い、児童が気付いたことを互いに説明し合うことで、表現力の向上を図る。	
理科	○天気の変化や魚の誕生については、理解度の到達率が 90～95%の児童が多かった。 ○植物の発芽と成長については、理解度の到達率が 85～90%程度だった。	○すべての単元において必ず 1 回は、個人の問題作りの時間を設定し、自分で問題を見付ける力を付け、主体的に問題を解決できる姿勢を身に付ける。 ○問題作りの過程において、不確かな情報や知識、解明できていない情報を丁寧に追い、問題を立てる上で大切な視点を絞りながら授業を展開していく。	

	○植物の単元では、生活経験や既習事項と結び付けて思考できないため、問題設定や仮説・予想が思うようにいかず、実験が知識及び技能に結び付かない。	○予想や仮説から実験方法を考えさせる。押さえておかなければいけない知識や技能は、児童にとって知る必要性が出てきた場面で伝え、到達度を上げられるようにする。	
体 育	○体育の学習に意欲的な児童が多いが、自分の学習課題を見だし、その解決方法を工夫する力が十分身に付いていない。	○授業の振り返りで、自分の課題を見いだす場面を意図的に設定し、その課題に対してどのような方法で解決していくかを考えさせる。 ○自分の課題を解決するために、運動をする場や練習の仕方などを自ら適切に工夫したり、選択したりすることができるように、学習環境をデザインしていく。	
総 合 的 な 学 習 の 時 間	○自ら課題を設定し情報を収集することはできるが、正確な情報であるかどうか疑問をもち、裏付けを試みる児童は少ない。また、まとめる際に自身の言葉で表現し直すことができる児童が少なく、本人にも聞き手にも難しすぎる内容になってしまう。	○インターネット上の情報のみにならないように指導する。また、調査するときに使用する書籍やホームページ、検索するキーワード等を例示したり、学童向けの検索エンジンを使用させたりすることで、理解しながら調査活動を行えるようにする。さらに、聞き手にとって分かりやすい表現で発表を行えるよう、話型や発表の方法を指導する。	